

ワンパーセント  
イオン1%クラブ

vol.12  
2026 Winter



イオン スカラシップ20周年記念式典にて、参加者全員で「We Are The World」を合唱(イオン スカラシップ)

イオンワンパーセントクラブ活動レポート

首里城の復興はみんなの願い

# 首里城復興支援

後援：沖縄県



首里城公園 首里社館にて記念撮影

## 「イオンチアーズクラブ首里城復興支援ポスターコンクール」表彰式を開催

2025年11月1日(土)、首里城公園(沖縄県・那覇市)で、5回目となる首里城復興支援ポスターコンクールの表彰式を開催しました。

本コンクールは、子どもたちに歴史ある文化遺産の「首里城」を描くという創作活動を通じて、首里城への理解と関心を深めてもらい、復興を支援することを目的に実施しています。本年は7月より作品募集を開始し、前年度を上回る881点の作品が全国から寄せられました。いずれも創造力にあふれ、色彩豊かな力作ぞろいでした。

審査には、絵画分野に精通した3名の審査員の方々に参加いただきました。描写力・表現力・復興への想い・色彩表現の4つの基準に基づいて審査を行い、「最優秀賞」のほか、本年より新設した

「沖縄県知事賞」「イオンワンパーセントクラブ賞」を含む各賞を選出しました。上位受賞者と保護者1名、総勢20名を表彰式および首里城などを巡る見学ツアーに招待しました。

表彰式では、沖縄県の池田竹州副知事、赤嶺審査員長、イオンワンパーセントクラブの渡邊理事長より、代表者に表彰状が授与されました。授与後には、受賞者を代表して8名が「ちばりよー(頑張れ)！ 首里城」と、復興への応援メッセージを送りました。

池田竹州副知事からは、「それぞれの表現力や創造力を生かした力作がそろっており、作品一つひとつから首里城に込めた思いが伝わってきて、大変感激しております」との総評をいただきました。

受賞者の皆さん、おめでとうございます。皆さんの表現力の高さには、いつも感心させられます。最優秀賞の作品は細部まで緻密に描かれており、これまでに見たことのない、本当に素晴らしい作品でした。首里城復興が、明るく前向きな未来へとつながっていくことを感じさせる表現だと思いました。ほかの受賞作品も完成度が高く、いずれも素晴らしい作品でした。子どもたち一人ひとりの思いが復興への後押しとなり、県民の思いを乗せて、新たな飛躍へとつながっていくことを願っています。



赤嶺雅審査員長と新村則人審査員から受賞者一人ひとりに絵の講評を伝えていただきました

### 審査員紹介



**赤嶺 雅氏**  
公立大学法人 沖縄県立芸術大学  
美術工芸学部 デザイン工芸学科  
デザイン専攻 教授  
大学院造形芸術研究科 兼任教授



**新村 則人氏**  
グラフィックデザイナー  
日本グラフィックデザイン協会 理事



**福島 治氏**  
学校法人 東京工芸大学  
名誉教授  
グラフィックデザイナー

## 世界遺産 首里城の見学ツアーと復興を学ぶ体験プログラムを開催

表彰式の後、受賞者20名とその保護者は、復元工事が進む首里城を見学しました。自分が描いた首里城と実際の首里城を見比べながら、「思っていたよりも濃い赤色だった。実物を見たので、来年はもっと上手に描けそうです」と、次回への意気込みを語る声も聞かれました。また、ガイドによる復元工事の説明に耳を傾けながら見学を進め、「首里城には多くの想いや歴史が詰まってい

ることがわかりました。これからも復興を応援したいです」と、首里城への思いを一層深めることができました。

見学ツアーの後には、首里城正殿の復元工事で用いられた木材の端材を活用し、スマートフォンスタンドを制作するワークショップに参加しました。見学した首里城の姿を思い浮かべながらデザインを施し、それぞれが思い出の品を完成させました。



首里城を飾る龍頭棟飾(りゅうとうむなかざり)がどのように作られているかを学びました



復元中の首里城の前で記念撮影

思い出に残る  
作品ができました!



オリジナルスマートフォンスタンドを制作しました

## 内閣府より紺綬褒章を受章

当財団は、2019年10月末に世界遺産である首里城が火災により甚大な被害を受けたことに対し、5年間で緊急支援金1,000万円を含む総額5億1,000万円の寄付を行いました。

こうした首里城復興のための支援活動が評価され、内閣府より紺綬褒章を受章し、表彰式同日に沖縄県において紺綬褒章の伝達式が行われました。



紺綬褒章の伝達(左)沖縄県土木建築部 参事 奥間正博様(右)イオンワンパーセントクラブ 渡邊廣之理事長



受賞者、来賓と審査員による記念撮影

## 第23回 中学生作文コンクール表彰式

主催/公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ  
後援/文部科学省 環境省 朝日新聞社 朝日学生新聞社

# 考えをまとめ、言葉で伝える 中学生作文コンクール

## 行動する力を育む学びの場 「第23回中学生作文コンクール表彰式」を開催

2025年11月22日(土)、東京都内の会場で、「第23回中学生作文コンクール表彰式」を開催しました。このコンクールは、中学生が環境に関する社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、文章にまとめる力を養うことを目的に、2003年より実施しています。本年は6月より、「未来へつなぐ、わたしのエコ活動」をテーマに全国の中学生を対象に作品を募集し、1万7,122点の作文が寄せられました。厳正なる審査を通過した優秀作品には、昨年設置した「文部科学大臣賞」に加え、本年新たに設けた「環境大臣賞」や「イオンワンパーセントクラブ賞」を含む各賞を授与しました。受賞者30名とその保護者各1名を、特別講演会および表彰式、翌日に実施した環

### 審査員紹介



教育アドバイザー  
清水章弘氏



作家  
汐見夏衛氏



お笑い芸人/ゴミ清掃員/  
環境省サステナビリティ広報大使  
滝沢秀一氏



朝日学生新聞社  
取締役会長  
高田圭子氏

境エコツアーへ招待しました。表彰式では、受賞者一人ひとりに表彰状が授与され、「文部科学大臣賞」「環境大臣賞」「イオンワンパーセントクラブ賞」を受賞した3名の代表者が、自身の作文を朗読しました。

作家の汐見夏衛審査員からは、「みなさんは約1,200字という長い文章を書くことができました。しかも内容の濃いものを書く力がある。それは一つの才能だと思えますので、大事にしてほしいです」と講評をいただきました。また、清水章弘審査員からは、「教育評論家・尾木直樹氏との出会いをきっかけに教育アドバイザーの道へ進みました。受賞された皆さんも、この出会いを大切に、審査員の先生方との会話を積極的に重ねてください」と、将来に向けたメッセージが贈られました。



文部科学大臣賞受賞者による作文の朗読

## 講演会「ごみとの付き合い方」 日常から考える環境と 消費のあり方

今回、審査員としても参加いただいた滝沢秀一氏より、「ごみとの付き合い方」をテーマに講演会を開催しました。滝沢氏は、「ごみは嘘をつかない。生活の縮図であり、その人自身を映し出すもの」と語り、ごみの出し方には品性や日々の習慣が表れ、立場のある人ほど整理された出し方をしているという、

ごみ収集の仕事を通して得た経験や学びを笑いを交えながら語りました。さらに、ごみ収集の現場で見えてきた食品ロスや環境問題など、社会全体の課題についても言及しました。滝沢氏が仕事を通じて得た独自の視点「ごみ学」をもとに、「どうすればごみを減らせるか」「今からできる分別とは何か」などの日常の行動につながるメッセージに参加者に投げかけ、参加者一人ひとりが真剣に耳を傾けていました。

## 「環境エコツアー」 体験と対話で深める エコ活動の学び

全国各地から集まった受賞者同士の交流を深めるとともに、学びと対話を通じて今後のエコ活動や環境にやさしい生活のヒントを得ることを目的に、環境エコツアーを実施しました。品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」を訪れ、館内ツアーや展示見学を行った後、グループに分かれてのワークショップを行い、各自が取り組んでいるエコ活動について意見を交わしました。

参加者からは、「全国から集まった同世代と環境問題について話し合うことができて、刺激を受けました。それぞれ



滝沢審査員による「ごみとの付き合い方」について講演



交流会では審査員の方々より話を直接聞く貴重な機会となりました



(特定非営利活動法人)持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J) 鈴木克徳 理事に講義いただきワークショップを行いました

の地域や立場によって取り組み方は違いますが、「環境を守りたい」という思いは共通していると感じたので、今後もつながりを大切にしたいです」といった声が聞かれ、今後の行動につながる学びの機会となりました。



「地球に優しい効果的なゴミの使い方」をテーマに設定し、「ゴミを出さず使い方を考えること」と「ゴミを出した後の使い道を工夫すること」どちらが地球に優しいかを話し、チームで出した結論を発表しました。

コンクール応募  
作品はこちらから





普及・啓発部門  
内閣総理大臣賞  
群馬県立大泉高等学校

### 普及・啓発部門

- 内閣総理大臣賞** 群馬県立大泉高等学校(植物バイオ研究部・微生物バイオ研究部) 日本遺産「里沼」の保全活動～地域に愛される湿原を目指して～
- 文部科学大臣賞** 熊本県立八代工業高等学校(工業化学科クレヨン班) 廃棄される植物を活用したクレヨン製作と環境教育
- 審査員特別賞** 熊本県立八代農業高等学校泉分校(グリーンライフ科) 命と向き合う高校生の挑戦と痛み

### 研究・専門部門

- 内閣総理大臣賞** 宮城県農業高等学校(AQUA HOPE) 深層元肥革命～装置開発で挑む肥料削減と環境保全～
- 環境大臣賞** 長崎県立諫早農業高等学校(食品科学部) 環境保全のための放置竹林削減～竹粉を使った平草菌床栽培～
- イオンワンパーセントクラブ賞** 広島県立西条農業高等学校(自然科学部) フンも無駄にしない!養コオロギで循環型バイオエコノミーを構築



研究・専門部門  
内閣総理大臣賞  
宮城県農業高等学校



イオンワンパーセントクラブ渡邊理事長より表彰状を授与

### 講演会・ワークショップ

各校のプレゼンテーションが終わると、参加者は2019年度イオンエコワングランプリ「普及・啓発部門」で内閣総理大臣賞を受賞した落合真弘さんによる講演会とワークショップに参加しました。現在、めだか教育デザイン合同会社代表、佐原みらい運河株式会社地域プロデューサーとして環境教育に携わる落合さんは、自身の経験をもとに環境



探究学習についてのワークショップを通して他校の生徒と交流を深めました

活動を行う意義について講演を行いました。環境教育に取り組み続ける落合さんの姿は、今後も環境活動を継続・拡大していく参加者にとって大きな励みとなりました。参加者からは、「探求学習について、もつとわがままでいいと言われてくれたことが勇気になりました。とても楽しいワークショップでした!」という声がかれました。

### 環境エコツアー

翌日の環境エコツアーでは、武蔵野大学(東京都東区)工学部サステナビリティ学科に協力いただき、「交流ワークショップ」に参加しました。エコ活動の資金集めや専門知識・技術を得るために苦労したこと等を共有し合い、話し合いの結果を発表しました。教授や大学生、他の最終審査会参加校の生徒と交流しながら学習を行いました。



武蔵野大学工学部サステナビリティ学科が取り組むサステナビリティプロジェクトを学んだあと屋上菜園を見学



最終審査会出場者、来賓と審査員による記念撮影

### 審査員紹介



**五箇合一氏**  
国立環境研究所  
生物多様性領域  
生態リスク評価・対策研究室  
特命研究員



**末吉竹二郎氏**  
国連環境計画・  
金融イニシアティブ  
特別顧問



**吉川美代子氏**  
キャスター、  
アナウンサー、  
京都産業大学 客員教授



**野口扶美子氏**  
JICA緒方貞子  
平和開発研究所  
地球環境領域 研究員

伝えたい、私が取り組むエコ活動

# イオン エコワングランプリ

**第14回イオンエコワングランプリ最終審査会・表彰式を開催**  
2025年12月13日(土)、東京都内の会場にて、「第14回イオンエコワングランプリ最終審査会・表彰式」を開催しました。  
全国の高校生が学校のクラブ単位で取り組む「エコ活動」をテーマとして、「普及・啓発部門」「研究・専門部門」の2部門で募集を実施しました。その結果、全国110校から122件の応募が寄せられました。  
最終審査会では、一次・二次審査を通過した12校(各部門6校)が7分間のプレゼンテーションを行い、その後、審査員による質疑応答が行われました。各校とも緊張した面持ちながらも、日頃の取り組みと成果を堂々と発表しました。4名の審査員による選考討論を経て、「内閣総理大臣賞」「文部科学大臣賞」「環境大臣賞」など、各賞の受

賞校を決定しました。  
表彰式では、各賞の受賞校が発表され、受賞校には表彰状と副賞のエコ活動奨励金を授与しました。内閣総理大臣賞を受賞した宮城県農業高等学校の生徒からは、「活動が、今後の農業を変えていけるものだと思います。自信を持って発表したので、賞をいただけたことが本当にうれしいです。」といった喜びの声が聞かれました。  
五箇審査員長からは、「今年は命と向き合うテーマが多く、研究のユニークさや社会にどう生かすかということが具体的に考えられていて印象的でした。皆さんが楽しんでキラキラしながら活動していることが希望です。これからも楽しみながら活動を続け、この経験を生かして社会に羽ばたいてください。」と講評をいただきました。



取り組みの成果を自身で作成した資料をもとに審査員にプレゼンテーション



奨学生による記念品・花束の贈呈



劇団影法師によるオリジナルストーリーの上演



サイトウ・キネン・オーケストラによる弦楽四重奏を3曲披露いただきました



書家 岡西佑奈氏による書道パフォーマンスで「暖」を披露



参加者全員で記念撮影

記念式典の様子は  
こちらから



第2部では、イオン スカラシップを支援いただいている来賓の方々にも参加いただき、記念式典を行いました。式典では奨学生から当財団の渡邊理事長へ、歴代OB・OG約700名の名前が刻まれた、「架け橋」をモチーフにした記念品が贈られました。

伝統的な影絵で上演し、参加者は留学当時の生活を懐かしく振り返りました。また、第1部で選ばれたメッセージ「暖」は、書家・岡西佑奈氏による書道パフォーマンスとして披露されました。メッセージを考案したチームが登壇し、その背景に込めた思いを語りました。式典の最後には、参加者が全員で「We Are The World」を合唱し、国籍や世代を超えて会場が一体となり、感動に包まれました。



参加者全員で「We Are The World」を合唱

# AEON Scholarship イオン スカラシップ20周年記念式典

日本と母国の架け橋となる



過去の写真を見ながら、皆で当時の思い出を振り返ります

2025年9月12日(金)、ホテルニューオータニ東京(東京都千代田区)で、イオン スカラシップ20周年記念式典を開催しました。

20周年という節目を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、次代へ支援の輪を広げていくことを目的に、会場には多方面で活躍する歴代奨学生や現役奨学生、大学関係者のほか、外務省や大使館の来賓の方々、約280名が集まりました。式典のコンセプトは「The Past meets The Future」です。



参加者の投票により「暖」のメッセージが選ばれました

歴代の奨学生で交流を深めます

第1部では、ゲストのモーリー・ロバートソンさんによる基調講演に続いて、歴代・現役奨学生が参加するディスカッションプログラムを実施しました。「過去から未来へつなぐ架け橋」をテーマに、次世代の奨学生へ伝えたいメッセージについて議論を重ね、各チームが協力して案をまとめました。その後、チーム毎に1分間のプレゼンテーションを行い、参加者の投票によって代表メッセージを決定しました。選ばれたメッセージは「暖——暖かい心を世界へ——」でした。

## 参加者の声



タン・ユインさん  
(2024年OG/中国)

式典のなかで特に印象に残ったのは、劇団影法師による影絵劇の公演です。日本に留学した女子学生がイオン スカラシップを受け、努力を重ねながら成長していく姿を描いた物語は、私自身の経験と重なる部分も多く、深い感動を覚えました。



盛 智倫さん  
(2025年OB/中国)

「We Are The World」の合唱の場面では、選ばれたメッセージ「暖」という文字が、なぜ多くの人の心を捉えたのかを改めて実感しました。日本での留学生活は決して順風満帆ではありませんでしたが、振り返ってみると、いつも大切な場面で私を助け、支え、温かさを与えてくれる人たちがいました。そのような存在こそが「暖」の意味なのだと感じています。



ファム・キン・フンさん  
(2013年OB/ベトナム)

式典後には、ベトナムのOB・OGが集まり、自分たちでベトナムの子どもを支援する基金を立ち上げる計画について意見交換を行いました。これまでは支援を受ける立場でしたが、今後は自分たちにできる形で、社会貢献や支援を行う側になりたいと考えています。

## 未来を担う高校生を支える2025年度 奨学生セミナーを開催



置賜地方(山形県)の魅力や地域貢献についてグループディスカッション

2025年11月8日(土)、山形県米沢市内にて、「近野教育振興基金」奨学生セミナーを開催しました。高校生奨学金の奨学生と、大学生奨学金の奨学生内定者、合わせて15名が参加しました。

当日は、当基金の前身である公益財団法人 近野教育振興会の鈴木元理事長より、温かい励ましの言葉が贈られました。また、山形県置賜総合支庁環境課の伊藤様より、「置賜地方の環境問題と課題解決への取り組み」をテーマに講義をいただき、地域が抱える現状や課題について理解を深めました。午後には、「置賜地方の魅力」や「地域貢献」をテーマにグループディスカッションを実施しました。将来、地域とどのような形で関わり、貢献していきたいかについて意見を交わし、自身の進路や役割を考える時間となりました。

## 親子のふれあいを通じて育児支援と地域の未来を育む



参加者とイオンファンタジーのキャラクター「ララちゃん」による記念撮影

2025年11月24日(月・振替休日)、イオンモール新利府(宮城県宮城郡利府町)にて、「イオン すくすくラボ」を開催しました。本イベントは、0歳から3歳までのお子さまとご家族を対象に、遊びを通して親子が自然にふれあい、お子さまの健やかな成長を支えることを目的に実施しています。

当日は、元幼稚園教諭で盛岡市生涯学習指導者を務める「親子ふれあい遊び あんさんぶる」の澤田章子先生を講師に迎え、発達段階に応じたプログラムを行いました。「わらべうた」や「リズム遊び」、身近な素材を使った手作りおもちゃの工作などを通じて、お子さまの感性やリズム感、集中力を育む方法を親子で楽しく学んでいただきました。また、イオンファンタジーのキャラクター「ララちゃん」も登場し、YouTubeでも人気の「旗上げ体操」を親子で体験していただくなど、会場は笑顔あふれる時間となりました。

## 緊急災害復興支援を実施



(右)ベトナム社会主義共和国 特命全権大使 ファム・クワン・ヒエウ 閣下  
(左)公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 理事長 渡邊 廣之

2025年10月にベトナムにおいて発生した台風、11月末日にインドネシア・タイで発生した豪雨により、各地で甚大な被害がもたらされました。

当財団は、10月17日(金)、駐日ベトナム社会主義共和国大使館にて、被災地域の日も早い復旧・復興を願い、緊急災害支援金として5万米ドルをベトナムへ寄付しました。

また、インドネシア・タイでの大雨と洪水により被災された皆さまに、緊急災害支援金としてそれぞれ5万米ドルを寄付しました。当財団では、事業の柱の一つとして、緊急災害発生時における迅速な支援を重視し、支援金や支援物資をお届けするとともに、被災地の復興に向けた支援活動を続けています。

今回被災された皆さまが、一日も早く平常の生活を取り戻されることを、心より願っております。

# イオン スカラシップ認定証授与式

## 本年度よりマレーシアにてイオン スカラシップの授与を開始

2025年11月から12月にかけて、アジア7カ国の大学で学ぶ奨学生に対し、奨学金の認定証授与を行いました。各国で開催された認定証授与式では、奨学生代表による「私の夢」スピーチが行われ、大学生生活で成し遂げたいことや将来の目標について、それぞれの力強い思いが語られました。

これまでインドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、ミャンマーの大学生を対象に支援を行ってまいりましたが、本年度より新たにマレーシアでイオン スカラシップの授与を開始しました。12月4日(木)に現地で開催された認定証授与式では、在マレーシア日本国大使館の二瓶大輔公使にご出席いただき、マレーシアを代表する「マラヤ大学」および「マレーシア国民大学」と当財団によるMOU交換式を行い、24名の奨学生に認定証を授与しました。



マラヤ大学、マレーシア国民大学の奨学生と来賓による記念撮影

### 2025年度イオン スカラシップ日程・開催国(都市)

11月15日(土) ミャンマー(ヤンゴン)	12月4日(木) マレーシア(クアラルンプール)
11月22日(土) ベトナム(ハノイ)	12月5日(金) カンボジア(プノンペン)
11月29日(土) インドネシア(ジャカルタ)	12月20日(土) タイ(バンコク)

## アジア5カ国で日本語スピーチコンテストを開催

日本語を学ぶアジア各国の大学生を対象に、「私にできる社会貢献」をテーマとしたスピーチコンテストを開催しました。

学生たちは、3分間の持ち時間をフルで活用しそれぞれの経験や問題意識をもとに、多様な視点から社会貢献について考え、その解決方法も巧みな日本語で語りました。335名の応募者のなかから、ビデオ審査および各国で実施された予選大会を経て選ばれた学生、計24名が2026年2月に日本で行われる最終審査に臨みます。



【最優秀賞】(左上) ナイラ・ファイザ・エリヤブトリさん(インドネシア) / (右上) ムハンマド・シャリザル・テンさん(マレーシア) / (左下) パチャララダー・ロハウィチャンさん(タイ) / (右下) ニモル・ネームさん(カンボジア)

### 最優秀賞受賞者 受賞者インタビュー



**Q. 日本語を学び始めたきっかけを教えてください。**

テレビで日本のバリアフリーの取り組みを知ったことがきっかけです。私自身、足が不自由なので日本のバリアフリーについて、もっと深く学びたいと思うようになりました。

**Q. スピーチで心がけたことはありますか?**

自分の考えがしっかり伝わるよう意識しました。日本語の発音は難しく、不安になることもあったのですが、先生方から「自信を持って大丈夫」と声をかけてもらい、落ち着いて臨むことができました。

**Q. 受賞した今の気持ちを教えてください。**

この賞は、自分のスピーチが皆さんに伝わった証だと思います。大学の後輩や先輩にも、ぜひ参加してほしいです。訪日研修では、日本のバリアフリーを実際に体験したいと考えています。

## 財団概要

### 笑顔あふれる未来をつくる。

イオンワンパーセントクラブは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に、グループ各社の参画のもと、1990年に設立されました。

以来30年以上にわたり、お客さまにイオングループをご利用いただき、生まれた利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な活動領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

## ご寄付のお願い

### 次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。なお、当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当財団への寄付金については、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

### ご寄付の方法

クレジットカード  
決済

WAON POINT  
利用

銀行振込

右記のコードを読み取り、  
寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



### 編集後記

第12号では、イオン スカラシップ20周年記念式典や、各国で開催したイオン スカラシップ認定証授与式・日本語スピーチコンテストの様子をお届けしました。2025年11月、ベトナムで開催した日本語スピーチコンテストで、最優秀賞を受賞したダオさんにインタビューをお願いしました。流暢な日本語で日本への思いを熱く語ってくださった姿が強く印象に残っています。本コンテストが、参加した学生たちにとって、夢や可能性を広げる経験となることを願っています。今後ともイオンワンパーセントクラブをよろしくお願いいたします。

(佐伯)



### 公益財団法人

ワンパーセント

## イオン1%クラブ

[発行元] 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1

Tel 043-212-6023 Mail 1p@aeon.info

右記のコードを読み取ると  
当財団の活動詳細をご覧いただけます。

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

